

2026年度ドコモ市民活動団体助成事業 申請書

活動テーマ1：生物多様性の保全を推進する活動

NPO法人 モバイル・コミュニケーション・ファンド理事長殿

申請日： 2026年3月●日

<記入の手引き>

団体名：	NPO法人グリーンアース自然学校		
(ふりがな)：	<div>●●●●●●●●</div>		
代表者名：	<div>●●●●●●●●</div>		
役職名：	代表理事		
申請区分（新規、継続の別）	新規	申請区分（単独、協働の別）	単独団体
※プルダウンから選択してください。		※プルダウンから選択してください。	
申請区分（法人格の有無）	法人格有	団体所在地の都道府県	静岡県
※プルダウンから選択してください。		※プルダウンから選択してください。	

申請団体	団体所在地	(〒 100-XXX) 団体専用 個人宅 勤務先等		
	静岡県・・・			
	電話番号	090-XXXX-XXXX		
連絡窓	URL	http://●●●●		
	住所	(〒 100-XXX) 団体専用 個人宅 勤務先等		
	静岡県・・・●			
□	(ふりがな) 連絡責任者	<div>●●●●</div>		
	電話番号	(固定)	連絡可能時間帯(日中)	
	(携帯)	090-XXXX-XXXX	連絡可能時間帯(日中)	10時～18時
	E-mail※			

※選考結果通知等の連絡は、2026年8月末（予定）までに文書でお知らせします。

1. 団体の概要

1-1.団体の概要（法人格有の団体向け）

団体種別	<input checked="" type="checkbox"/> NPO法人 <input type="checkbox"/> NPO法人以外の法人格（ ）						
主な活動分野	社会教育／まちづくり／観光／農山漁村・中山間地域／環境の保全／災害救援／国際協力／子どもの健全育成／連絡・助言・援助						
設立の目的	国内外において、子どもから大人まですべての人を対象にした、良質で適切な自然体験活動および、環境教育、野外教育などの普及、啓発、調査研究、人材育成に関わる事業を行い、地域の文化や自然環境の保全につとめ、もって、持続可能な社会づくりに寄与することを目的とする。						
設立時期	2005/4		(法人格取得時期： 2006/3)				
会員数	正会員	個人	15 人		その他 会員	個人	0 人
		企業・団体	0 件			企業・団体	0 件
団体職員数	常勤	15 人		非常勤	2 人		
ボランティア※	無償	20 人		有償	10 人		

※交通費・食費等の実費補てんを目的とするものは無償として、その他の対価的（日当など）に支払われるものは有償とします。

1-2.団体の概要（任意団体向け）

※任意団体の場合、設立の目的等欄にご記入ください。

設立の目的				
設立時期				
団体メンバー	常勤	人	非常勤	人
ボランティア※	無償	人	有償	人

※交通費・食費等の実費補てんを目的とするものは無償として、その他の対価的（日当など）に支払われるものは有償とします。

推薦者（任意団体：必須）

所属・役職				
氏 名				
問合せ連絡先	電話番号		E-mail	
推薦コメント				

※推薦者は、中間支援組織（NPO支援センター・ボランティアセンター・社会福祉協議会などの活動支援団体）の職員で団体の活動状況について把握している方。なお、申請書を作成する場合には、同時並行で推薦団体へ打診するなど、事前の了解を得ておいてください。

<記入のポイント>

入力にあたっての注意点

- ① フォントは、11ポイントで設定されています。
- ② 改行は「Alt+Enter」で行ってください。
- ③ 電話番号は、ハイフンを入れてください。
例. 090-XXXX-YYYY
- ④ 団体ウェブサイト、SNS（Facebook、Instagram 等）のURLをご記入ください。

・申請区分（単独、協働の別）

協働申請の場合は、項番10,11（8ページ目）に必要事項を記入してください。

・団体種別

NPO法人以外は法人格（民間の非営利活動法人に限る）を記入してください。

・主な活動分野

NPO法人は、NPO法に規定する主な活動分野、それ以外の法人は、主に活動している分野について記入してください。

・推薦者（任意団体：必須）

任意団体の場合、推薦者名と推薦コメントが必須となりますので、事前に推薦者にコメントの作成を依頼し、その内容を記入してください。
（氏名の記載については自署の必要はありません）

注意：審査の過程において、MCF事務局から推薦者に確認の連絡をさせていただく場合がありますので、事前に了解を得ておいてください。

2.団体の財政状況

(1)2025年度 決算見込（経常収支）

経常収益	14,100,000	円	経常支出	14,100,000	円
------	------------	---	------	------------	---

※申請書記入日時点の見込額を記入してください。

(1)2025年度 決算見込（経常収支）

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

(2)2025年度 経常収益内訳

※収入（会費・寄付・自主事業・受託事業等・その他）区分で記入し、その対象をそれぞれ主要なものを2つまで記入してください。

会費	50,000	円	0.4	%			
寄付	2,000,000	円	14.2	%			
自主事業	6,500,000	円	46.1	%	①	主な対象 児童生徒（小1～高3）	6,000,000
					事業内容	自然体験プログラム	
					②	主な対象 児童生徒、親子（年中・年長）	500,000
					事業内容	キャンプ事業	
助成金等	1,700,000	円	12.1	%	①	助成元 一般財団法人〇〇	500,000
					事業内容	〇〇保全プロジェクト	
					②	助成元 NPO法人〇〇	1,000,000
					事業内容	発達障がい児向けの自然体験プログラム	
受託事業	3,800,000	円	27.0	%	①	委託元 〇〇プロジェクト	2,000,000
					事業内容	〇〇教育センタープログラム業務委託	
					②	委託元 〇〇県	1,800,000
					事業内容	研修業務委託	
その他	50,000	円	0.4	%			
合計	14,100,000	円	100.0	%			

(2)2025年度 経常収益内訳

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

(3)2026年度予算

経常収益	14,200,000	円	経常支出	14,200,000	円
------	------------	---	------	------------	---

※申請書記入日時点の見込額を記入してください。

(3)2026年度予算

申請書記載日時点の見込み額を記入してください。

3.活動テーマの分類

活動テーマを1つプルダウンから選択してください。

(1) 生物多様性の保全を推進する活動

最も該当する活動テーマを1つプルダウンから選択してください。

●●●●●

上記回答で「その他」を選択した場合、下記欄に具体的活動テーマを記入してください。

4.この助成金で達成したいこと

(1)活動タイトル及び活動概要

今回の助成金を活用して実施する活動のタイトルとその概要について、背景や課題とともに記入してください。

活動タイトル および活動概要	活動タイトル（40文字以内）
	希少種の最適環境の把握と、地域内外の人材による持続可能な保全体制の構築支援
	活動概要（300文字以内）※申請書全体の要約として具体的かつ、活動概要を分かりやすく記入してください。
	生育地である里山の環境の消失や盗掘等により近年特にその数を減らしている保全対象種は、環境省RDB等多数のリストに記載される絶滅危惧種である。自生地近くで活動する保全団体は、数少ない自生地を保全し個体数の維持回復等貴重な成果をあげてきたが、「より詳細で科学的な知見の応用」や「次世代の担い手不足」という課題を抱えている。そこで本取り組みでは、当会を主としつつ、保全対象種の専門的研究者と連携し該当地における最適環境の分析と保全計画案の策定を行うこと、また当会が地域内外の次世代の担い手の発掘・育成を行うことで、三者連携による「種及び生育環境の保全」と「持続可能な保全体制構築」を実現していく。

活動タイトル（40文字以内）

十分に活動内容が分かるタイトルとしてください。

(2)団体が考える未来のあるべき姿（ビジョン）と社会的役割（ミッション）/現状と課題/今後の活動

団体が考える望ましい社会状況から現状の課題を示し、その上で、今後3年間で実施する活動をまとめてください。

①ビジョン・ミッション・めざす活動基盤 (a～c各300文字以内)	②活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題 (600文字以内)
①a.望ましい社会状況（ビジョン） 私たちは、1人ひとりが「人・自然・地域の共生する暮らし」の実践を通じて、感謝の気持ちと誇りを持って生きている社会の実現を目指しています。そして、そこに向かうアプローチとして、①誰もが自然・地域の一部であることを自覚し、それぞれの立場で行動している社会づくり、②地域の生物多様性が、維持・回復に向かっていく社会づくり、③地域で多様な生業が成り立ち、定住・交流人口が増え、文化が価値のあるものとして継承されている社会づくりを掲げています。スタッフは、これらに向かう様々な活動を多様なステークホルダーとの協働で企画・実施していきます。	②a.活動対象地域における現状と課題（定量的に示してください） 活動対象地域は〇〇山の裾野に位置し、年平均気温〇度、年平均降水量〇mmの環境・気候条件を有している。対象地域には、〇〇や〇〇など保全対象種と生活史が類似した種が約〇種生育している。一方で、近年は〇〇などの外来種も約〇個体確認されている。早春以外の季節においても、初夏にはラン科の〇〇、秋には〇〇や〇〇などが確認されている。周囲は北向き斜面の地形で、斜面底部には水脈が見られる。当地には〇〇〇が生育しており、落葉広葉樹林内のうち、適度に光が差し込む明るい傾斜地を好むが、早春に開花するため、花粉媒介者が限られる点が生存・繁殖上の制約となっている。 平成〇〇より地域保全団体が主体となり、下草刈り等の保全管理作業、個体数調査および盗掘防止巡回を年約15回実施してきた。その結果、個体数は保全開始当初の数十株から、令和〇年度には約〇個体まで増加した。一方、会員〇名の高齢化が進んでいることに加え、会費や有志による持ち出しに依存した財政構造により自主財源比率が高く、さらに毎年約〇株の盗掘が発生している点が課題となっている。
①a'.ビジョンをまとめるに至った経緯・理由 私たちの暮らしは、豊かな自然がもたらす様々な恵み、共に暮らす人々、地域で育まれる生業に支えられています。このことは、「当たり前」であるがゆえに日常的に意識することが難しく、とすると忘れ去られてしまう視点だと考えます。また、この視点は他者から教えられるのではなく、実体験を通して自ら気づくことに意味があると捉えています。上記ビジョンはこうした課題意識のもと決めました。すべきことは多岐に渡りますが、スローガンとして「自然語で話そう」を掲げ、まずは、自然体験を通して自然環境が持つ意味や価値を捉える感性を研ぎ澄まし、仲間や社会との対話を通して自らの「自然観」を獲得してもらうことを活動の軸にしています。	②a'.数値データ等の出典 〇〇都道府県・市区町村レッドデータブック（20XX年改訂） 〇〇都道府県・市区町村レッドデータリスト
①b.団体の社会的役割（ミッション） 上記ビジョンの実現のため、生物多様性保全の推進は極めて重要な基盤活動になると考えています。ミッションとして以下の3点を掲げます。 ①実践者としての保全活動の推進、②生物多様性保全に携わる人材の発掘・育成、③多主体協働のハブとしての機能発揮。生物多様性保全を推進していくためには、②と③へのアプローチが欠かせません。そのアプローチに説得力を持たせる上でも、①の取り組みが重要だと考えます。そこで、当団体が維持・管理できる野外フィールドにおいて、生物種のモニタリング、指標種の設定とその保全、自然共生サイトへの登録等を進めます。そのノウハウを人材育成プログラムの開発や実践、企業や行政、大学等との連携事業に反映させ、広がりを持たせていきます。	②b.団体の課題（250文字以内） （課題1）生物多様性保全に関する専門知識の不足 市民主体の活動であり、担い手が不足しているため人材確保が必要である。 （課題2）活動・運営のための資金の不足 行政からの委託費や会員の持ち出しが主な財源となり、不十分である。 （課題3）団体の運営や活動を担う次世代人材の確保 設立当初のメンバーが数名で運営や活動を行っている現状である。 （課題4）企業、行政、個人などに参加してもらうための活動メニューの未整備 関心を示してくださる外部の方々がいるものの、それに対応できる活動がない。
①c.団体の理想的活動基盤 (人的資源(ヒト)/物的資源(モノ)/活動資金(カネ)/情報 等)	③今後3年間で実施する活動 (①と②のギャップを埋めるための活動基盤とアクション)
●望ましい人的資源： ・生物多様性に関する一般的な知見と、作業に関する現場でのノウハウを兼ね備えた人材 ・活動を持続的に行うための団体運営の知見を有する人材 ・多様な主体をつなぎあわせプロジェクトをマネジメントできる人材	③c.3年間でめざす団体の活動基盤 ●人的資源： ・新たな人材が参画し、活動・運営に関与している。 ・外部連携の中で、中間支援を担う人材がいる。 ●物的資源： ・安全かつ効果的にプロジェクトを進めるための資材が揃っている。 ・必要な重機等が利用可能である。 ●活動資金： ・自主事業による一定の収益がある。 ・企業の支援を受け、連携して活動している。 ●情報： ・国際的な情報を常に把握する体制がある。 ・地域でローカルな情報交換ができる体制が整っている。
●望ましい物的資源： ・現場での活動資材（チェーンソー、仮払い機など） ・中規模以上の重機（竹破砕機など） ・活動拠点（作業小屋、倉庫など） ・プログラム用資材（水質検査キット、長靴など）	③c.3年間で実施するアクション ●1年目(活動の内容を簡潔にご記入ください。) ①当団体紹介や活動紹介の場の創出 ・オンラインでのイベントやオンラインでの情報発信を通じ、団体や活動について知ってもらう機会を設ける。 ②地域のキーマン（地域内部で様々な関係者を繋ぎ合わせ、円滑な関係づくりを担う人材）や住民への活動紹介・相手側に合わせる形で活動を知ってもらう機会を設ける。 ●2年目(活動の内容を簡潔にご記入ください。) ①当団体の活動への参加 ・実際の活動に参加するとともに、スタッフや現地の環境に触れる中で「一緒に活動したい」という想いを醸成する。 ②地域域キーマンや住民の参画機会の創出 ・外部参加者に地域の紹介をする際、地域のキーマンや地域住民に講師等を担っていただくことで、当法人の保全活動に関わるきっかけを創出する。 ●3年目(活動の内容を簡潔にご記入ください。) ①当団体への加入と活動の牽引 ・これまでに、地域キーマンや住民と構築した関係性をもとに当団体へ加入し、一部の活動を主体的に担い、牽引役となる。 ②理解者として持続的に関わる体制の構築 ・活動や団体の継続につなげるため、丁寧なコミュニケーションを重ねながら連携を構築していく。

項番4(2)(300文字以内)

①ビジョン・ミッション・めざす活動基盤

①a.望ましい社会状況（ビジョン） ●団体の現在の活動目的を踏まえ、改めて団体内部で議論をして、団体が考える望ましい社会状況(ビジョン)について、わかりやすく記入してください。 ●あわせてビジョンをまとめるに至った経緯や理由について、エピソード等を交えてわかりやすく記入してください。 ※本項目は、団体の考え方を明確化していただく箇所であり、内容に関する評価等を行うものではありません。
①c.団体の理想的活動基盤 (人的資源(ヒト)/物的資源(モノ)/活動資金(カネ)/情報 等) ●ビジョンを実現することをめざし、団体の考える社会的役割(ミッション)について、わかりやすく記入してください。 ●あわせて団体が考える理想的な活動基盤として、人的資源(ヒト)、物的資源(モノ)、活動資金(カネ)、(情報)について、記入してください。 ※本項目は、団体の考え方を明確化していただく箇所であり、内容に関する評価等を行うものではありません。
②活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題 (600文字以内) ②a.活動対象地域における現状と課題 (定量的に示してください) ●申請書項番4(2)で整理した将来的なビジョン、ミッションの内容(①)を踏まえ、現在の状況を確認していただきます(②)。 ●活動対象地域における生物多様性の保全に関して、対象となる地域・対象種・集団等の現状や課題について詳しく分析し、記入してください。その際、対象となる生き物の名称や個体数、地域特性などをできるだけ具体的に示してください。記入する際は、活動地域に関する統計情報や団体の独自調査結果など、具体的なデータに基づく客観的な状況把握を行い、可能な限り定量的に記入してください。 ※以下の観点を参考に記入してください。 ・対象地域に生息・生育している在来種・外来種の状況(名称・個体数など) ・季節ごとに見られる生き物の変化や特徴 ・生態系の特徴(例：地形、植生、水系など) ・保全上の課題 (例：開発による影響、外来種の増加 など)
②b.団体の課題 (250文字以内) 申請書項番4(2)で整理した将来的なビジョン、ミッションの内容(①)を踏まえ、団体が、現状どこまでできていて、どこが課題となっているかという観点から、特に団体が抱える課題について、可能な限り定量的にまとめて記入してください(②)。
③c.今後3年間で実施する活動 (①と②のギャップを埋めるための活動基盤とアクション) ●申請書項番4(2)で整理した、将来的なビジョン、ミッションの内容(①)、また、現状と課題(②)を踏まえ、①と②のギャップを埋めるためのアクションと、活動基盤として今後3年間で実施する活動(③)について、記入してください。 ●3年間でめざす団体の活動基盤と、実施するアクションについて、1年ごとに活動内容を簡潔に記入してください。 ●記入後、もう一度、①のビジョンとミッション、②の現状と課題、③の具体的なアクションとめざす活動基盤が整合しているか確認し、必要に応じて、修正してください。

5.活動の受益対象、活動目標及び成果目標の設定

(1)活動の受益対象

(2)を踏まえ、受益対象（動植物・森林・河川など）を明確化した上で、活動の着眼点・ねらいと優先度（高・中・低）を記入してください。（6件まで記入可）

	番号	受益対象	受益対象の変化・向上のための着眼点・ねらい	優先度 (高・中・低)
活動の受益対象と活動の着眼点・ねらい (具体的な受益対象ごとに変化・向上のための着眼点・ねらいを記入してください)	①	該当種	開花数などが増え、種の存続が保たれる	高
	②	新たな人材	団体の想いや活動への参加の機会が設けられ、興味関心が高まる	高
	③	地域キーマン人材	地域の価値や未来について理解し、連携パートナーが増える	高
	④	地域の子供や住民	地域の価値に気づき、愛着がわく	中
	⑤	市内の一般市民	生活や仕事をする地域の価値に触れ、定住や移住が増加する	中
	⑥	市内外の企業	生物多様性に関する価値を知り、保全にかかわるようになる	中

(2)具体的な活動内容

今回申請する事業について、上記(1)で記入した優先度「高」の**受益対象に焦点**をあて、優先度が高いものを3つに絞って、活動内容を分かりやすく具体的に記入してください。また、活動基盤の強化(人材育成・情報発信)についても、優先度の高い内容を1つ記入してください。

助成期間中 (2026.9.1～2027.8.31)の 優先度「高」の活動 と活動基盤強化の内容	<p>●活動内容</p> <p>1.該当種の生態に適した環境創出【専門家との調査・分析】 保全対象種の研究に従事する研究者を招聘し、現地での環境や生育期・開花期・果実期それぞれにおける該当種の個体数及び生育状況を調査することで、現地における該当種の生育状況を把握するとともに、保全に向けた最適な環境を創出するための分析及び検討を行う。</p> <p>2.担い手人材育成講座【地域内外で守る仕組みをめざした人づくり】 希少生物の存在意義や保全への取組み、盗掘の現状を理解するとともに、保全団体の活動をサポートできる人材育成を行う。</p> <p>3.地域キーマン人材との連携強化 持続可能な保全体制の構築に向け、具体的に行政の担当課（都道府県、市区町村）、地域保全団体、地域キーマンなどと連携するための場を設ける</p> <p>●活動基盤の強化の内容</p> <p>担い手人材育成講座からの団体加入促進 担い手人材育成講座のプロセスの中で、団体のスタッフと交流する機会を設けると共に、団体の活動内容や想いに触れる場を設け、自然と加入に意識が向くような機運の情勢をめざす。</p>
---	--

(3)活動の目標とその成果目標の設定

上記（2）の活動内容について、それぞれの活動目標と成果目標を具体的に設定してください。あわせて実施前後の状態について、可能な限り定量的に記入してください。また、団体の活動基盤の強化（人材育成・情報発信）についても、同様に記入してください。

≪各テーマ別 目標の記載例≫ 活動名	番号	受益対象	活動（アウトプット） の目標 ※1	活動の成果（受益対象の変化・向上＝アウトカム）目標※2		
				想定される活動の成果	実施前	実施後
1 〈例：自然環境の保全活動〉 早春植物の生育環境及び開花数・種数保全活動	■	早春植物	下草刈り作業 3回/年 (時期2, 6, 10月) (雑木林0.5ha)	早春植物の生態を考慮した保全活動の実施により、開花数・種数や生育環境が向上している。 【測定・評価のための指標】 ①1種あたりの開花数 ②早春植物の種数	①80株 ②5種	①100株 ②10種
			活動期間 2026.10.1～ 2027.2.28			
2 〈例：絶滅危惧種等の保護活動〉 絶滅危惧種キンランの保全活動	■	キンラン	下草刈り作業 3回/年 (時期2, 6, 10月) (雑木林0.5ha)	キンランの生態や生育環境に即した保全活動により、主に開花数が増加する。 【測定・評価のための指標】 開花数	80株	100株
			活動期間 2026.9.1～2027.7.30			
3 〈例：環境学習活動〉 関心層を対象とした、受講を通じ能動的な活動を促す体験学習会の開催	■	環境学習活動の参加者により自発的に保全される自然環境	伐竹作業 6回/年	保全活動に参加した対象者が、自発的な参加や保全活動を行うことで、その先にある地域の生物多様性が改善する。 【測定・評価のための指標】 ①保全活動の参加者数 ②参加者の自発的な参加回数 ③②による環境改善度合 aモウソウチクの皆伐面積 bその後に成立する広葉樹林面積	①0人 ②0回 ③a 0㎡ b 0㎡	①30人（延べ） ②15回 ③a25㎡ b25㎡
			活動期間 2026.10.1～ 2027.3.31			
4 〈活動基盤強化〉 担い手の加入及び事業の運営を想定した活動基盤強化活動	■	保全の会開催の講習会参加者	講習会開催数 5回/年 講習会参加者数 10名/年	保全の会の講習会に参加することで、その会に加入するだけではなく、加入により会の事業回数などが向上し、その先にある生物多様性の質が改善・向上する。 【測定・評価のための指標】 ①保全の会への加入人数 ②保全の会が実施する保全活動の開催回数 ③保全の会が実施する保全活動への参加人数 ④③による環境改善度合 a広葉樹林整備面積 b人工林整備面積	①0人 ②3回 ③15人 ④ a 0㎡ b 0㎡	①2人 ②5回 ③20人 ④ a25㎡ b25㎡
			活動期間 2026.10.12027.3.31			

項番5(1)活動の受益対象

●「受益対象」を設定してください。「受益対象」は、活動や成果によって直接影響を受ける動植物・森林・河川等、また、団体メンバー・ボランティアスタッフ等も含まれます。

●どの受益対象にどのような取り組みをすれば、「効果的な成果をもたらすのか」「課題を解消することができるのか」について検討してください。

●上記で明確化した受益対象について、優先度の高い項目から順番に記入し、上位3項目の受益対象の変化・向上のための1年間の活動目標を設定してください。なお、活動目標が3件未満の場合は、目標を細分化する等、必ず、3件の目標を設定してください。

項番5(2)具体的な活動内容/項番5(3)活動の目標とその成果目標の設定

項番5(1)で設定した受益対象の上位3項目の受益対象の変化・向上のための3年間の活動内容と活動目標を分かりやすく具体的に記入してください。

※3項目の活動目標を設定していただくことを申請条件とします。

助成期間終了後も事業を安定的・継続的に推進できるよう、活動基盤強化の取り組みについて検討し、1年間の目標を設定してください。

※1項目の活動目標を設定していただくことを申請条件とします。

項番5(3)活動の目標とその成果目標の設定

活動の成果（アウトカム）目標（※2）については、助成期間終了後（1年後）にめざす活動の成果を明確にしたうえで、受益対象に対して生物多様性の保全上どのような価値を提供できたかを評価するための指標を設定してください。

（用語の定義）
・活動の目標（アウトプット）：
当該活動の直接の結果のこと。内容を数値で測定するための具体的な単位を示す。

・活動の成果（アウトカム）：
当該活動を通じて生じる受益対象の変化や向上を指します。助成期間終了後に、受益対象がどのような状態または状況になっていることをめざすのかを記入してください。

・指標：
内容を数値で測定するための具体的な単位を示す。

・実施前：現在の状態や状況を事前に把握したうえで、指標に基づく現状の数値（把握可能な範囲）を示してください。
・実施後：助成期間終了後に目標とする数値を示してください。

（留意点）
・環境学習活動や活動基盤強化（スタッフのスキル向上、マニュアル作成等）については、活動の成果（アウトカム）を参加者数の増加や環境意識の向上のみにとどめず、本事業の実施が生物多様性の保全・回復にどのようにつながるのかを踏まえ、団体内で検討のうえ、目標および指標を設定してください。

(4)活動の成果を測定するための手法の提案

前(3)で設定した活動の成果について、指標に基づき具体的に測定するための手法について記入してください。

<p>活動の成果 測定手法</p>	<p>指標種 種名：○○○○○○○</p> <p>●保全活動について</p> <p>(1) 個体数、開花個体数、結実個体数について、それぞれ定量的にカウントする。</p> <p>(2) 開花時期、開花日数、結実時期を年ごとに記録をとり、気象庁のデータなどと照合して、種の生育状況を数値的に比較・把握する。</p> <p>(3) 最適環境の目安として、斜面の方位、日照度、土壌湿度を定量的に計測する。</p> <p>●担い手育成について</p> <p>(1) 講習会の3回目の最後に理解度及び意思確認シートを記載させ、対象種や周辺知識に関する理解度や盗掘などに関する自制心を測る。</p> <p>(2) 上記(1)の内容に、一定以上の理解を示した者に、認定証を授与する(=顔写真を撮影し、会のメンバーへも報告・共有する)。</p> <p>(3) 盗掘パトロールへ何回参加したかで、保全への理解や関心度を測る。</p> <p>(4) 保全の会へ加入した方どうかで、保全への理解や関心度を測る。</p>
-----------------------	--

項番5(4)活動の成果を測定するための手法の提案

項番3(3)に示した指標に基づき、具体的にどのような手法を使って活動の成果を測定するのかについて、具体的な方法を記入してください。その際、単に「●●調査を実施する」などとせず、無理なく回答が得られる方法、また、結果を得るのに役立つ集計・分析するのかなど、その内容を簡潔に記入してください。

(留意点)
効果の確認に用いる生きもの(「指標種」)を設定している場合は、その種名と具体的な調査方法を記入してください。(例: モニタリングの頻度・時期・手法 など) 指標種を設定しない場合は、どのような方法で効果を確認するのか、具体的に記入してください。

6.助成期間中の活動スケジュールと推進体制

(1)活動スケジュール

活動スケジュールについて、事業ごとに分かりやすく、具体的に（5W1H※1を意識して）記入してください。

[illegible]

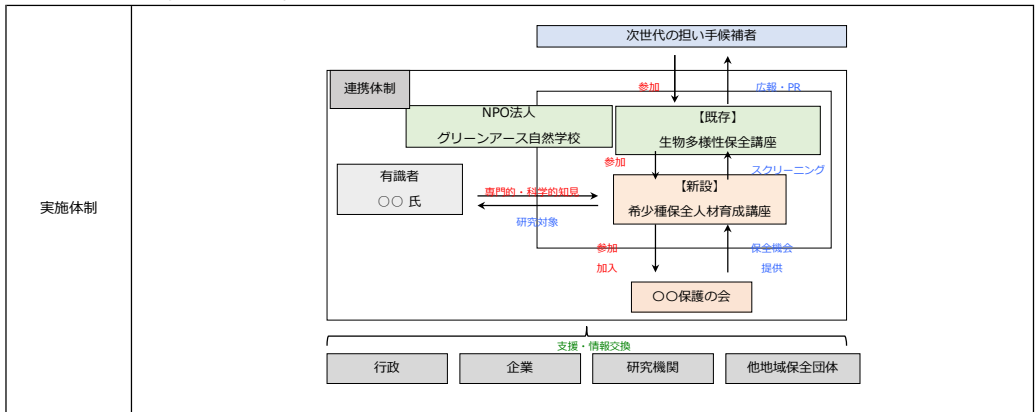
※1 5W1Hは、What (何を)、When (いつ)、Why (何のために)、Who (誰が/誰に)、Where (どこで)、How (どのように)です。

項番6(1)活動スケジュール

活動スケジュールについて、具体的に（5W1H：何を／いつ／何のために／誰がor誰に／どこで／どのように）記入してください。

- ・実施活動名
- ・時期（いつからいつまで）
- ・ねらい、目的
- ・参加スタッフ、サービス提供者
- ・実施場所
- ・活動内容

活動のための実施体制（協力団体等を含む）について記入してください。



実施体制については、協力団体等を含めてわかりやすく記入してください。

図表の挿入は可能です。（任意形式）

活動に関する専門知識を持つ有識者とのネットワークがある団体は具体的に記入してください。

(企業・大学等所属・役職・氏名など)	想定する役割
〇〇保全の会 会長 〇〇	地域関係者との調整、地域での保全活動の実施
〇〇大学 教授 〇〇	対象種に関する科学的な調査・研究及び助言

専門知識を持つ有識者とのネットワークがある場合は、当該団体の役職・氏名と想定する役割について、記入してください。

活動の状況やその成果を社会に広く発信するための情報発信計画について記入してください。

申請事業に関する 情報発信の計画	情報発信の内容及び頻度	媒体名	情報発信の受け手と想定する効果
	情報発信の内容： 保全対象種の保全に関する活動内容 頻度：1回/3ヶ月	会報	情報発信の受け手：保全の会 会員 想定する効果：会の再活性化、実働参加者の増加
	情報発信の内容： 保全対象種の保全に関するレポート 頻度：1回/年	データ媒体	情報発信の受け手：〇〇 想定する効果：先行研究事例としての採用、 専門的知見の助言

- 活動の実施状況だけでなく、生物多様性保全の取り組みにより得られた成果を定量的・定性的に示された情報発信を期待します。
- 情報発信の内容は、地域・世代への連携/報告書・レポートの公開/報告会・セミナー・研修の開催など、複数の媒体を通じた発信が望ましく、幅広く捉えて計画してください。
- 団体が発信する情報は、受け手を意識した情報発信と、受け手によってどのようなメリットがあるのか。また、どのように周知することで、団体にメリットがあるか、などを意識して記入してください。

4(2)で設定したビジョンとミッションを実現するため、助成期間終了後に事業を継続、普及、発展させていくための工夫と、その工夫によって期待できる事業の広がりについて記入してください。

<p>助成期間終了の活動の継続性・将来的な広がり (目安：各450文字程度)</p>	<p>①事業の継続性とそのための工夫について</p> <p>・今後3年間の取り組みを通じて、地域内外の人材育成・体制づくり・デジタルツールを用いた保全活動・地域の実情に即した保全管理計画の策定などの「持続可能な保全運営体制のための土台作り」を行っていく。</p> <p>・担い手育成については、事業初期から参加した人材を将来的な中核メンバーとして位置づけ、段階的に役割を担ってもらう仕組みを構築する。具体的には、中核メンバーに求められる知識・技術・調整力等を整理した「支援力確認シート」を作成し、求められスキル・到達状況を見るる化することで、計画的な育成と役割移行を行う。これにより、助成期間終了後も人材育成の基準を共有しながら新たな担い手を育てていくことを可能とする。また、担い手人材と地域住民、土地所有者、関係団体等が参加する「●●交流勉強会」を年〇回開催し、活動内容の共有や意見交換を通じて顔の見える関係性を構築することで、地域からの理解と信頼を高め、継続的な保全活動につなげる。</p>
	<p>②事業の将来的な広がり</p> <p>・〇〇市の生物多様性地域戦略の中で「民間地域における重点地域」への指定を目指し、市の施策の中に位置付けて予算に基づいた保全活動を行い、行政施策の中で継続的に保全活動を展開できる基盤の構築する。</p> <p>・該当地をOECMとして自然共生サイトに登録し、企業等の多主体連携を促進し、民間参画による保全活動の広がりにつなげる。将来的には、本事業で構築した自主財源確保に向けた自治システムについて、その取組内容を説明会や勉強会等の場で共有し、同じ活動地域で保全活動を推進している他団体や他の保全エリア、関係団体にも展開することで、地域内での水平展開を図ることを想定している。</p>

●本事業について、助成期間終了後も継続的に活動を行うための取組について記入してください。あわせて、事業継続に向けた工夫、知見・ノウハウの普及・拡大の仕組み、ならびに担い手育成や資金調達等を含む、安定的な組織運営につながる取組について記入してください。

●「事業の継続性とそのための工夫」を通じて、具体的にどのような波及効果が期待できるのかについて、分かりやすく記入してください。

●本事業で得られた知見やノウハウを同じ分野で活動している他の団体へ共有する等、ロールモデルとなるような役割を期待しています。そのような役割を果たす上で必要と考える点、工夫していきたい点を記入してください。

9.申請助成金

(1)申請助成金額 921,000 円

(2)予算書

■収入

区 分	金 額 (円)	内 訳
①申請助成金	800,000	
②自己資金※	121,000	自然体験プログラム参加費から充当
③その他の資金※		
合計	921,000	

※申請施策の実施にあたって、①に加え、②や③の自己資金等を支出する場合は必ず記入してください。

なお、同一の費用を重複して計上することはできません。

■支出

区 分	金 額 (円)		内 訳
	助成金 (①)	自己資金等 (② + ③)	
委託費	310,000	0	〇〇大学〇〇先生 ・ 実地講座同行：20,000円/回×5回分=100,000円 ・ 現地調査主導：20,000円/回×3回分=60,000円 ・ 出張旅費：45,000円/回×3回分=135,000円 ・ その他専門的助言（zoom等）：2500円/回×6回分=15,000円
謝金費	150,000	0	〇〇の会 講義講師：20,000円/回×2回分=40,000円 実地講師：20,000円/回×4回分=80,000円 現地サポート：一式=30,000円
人件費	300,000	100,000	NPO法人グリーンアース自然学校 講座運営：25,000円/名・日×全7回分=175,000円 活動内容まとめ及びレポート作成：25,000円/名・日×5日分=125,000円
消耗品費	40,000	21,000	環境測定機器購入：40,000円 講座・実地研修用 用紙代 事務用品代等：3,000円/回×7回分
合計	800,000	121,000	

申請書項番9（2）予算書

助成対象経費

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| (1) 人件費 | 申請活動に従事する常勤スタッフ・アルバイト等への賃金 |
| (2) 謝礼金 | 外部から招聘した講師などへの謝礼金 |
| (3) 旅費 | 宿泊費、公共交通機関、有料道路料金 |
| (4) 物品・資材購入費 | 備品（椅子、棚、道具）、電子機器類、
資材（肥料、苗木）など |
| (5) 消耗品費 | 文房具、燃料費 など |
| (6) 会場費 | イベント会場などの借料 |
| (7) 資料購入費 | 書籍、文献などの購入費 |
| (8) 印刷費 | 検討資料、配布資料、報告書などの印刷費 |
| (9) 通信運搬費 | 郵便料金、宅配費など |
| (10) 業務委託費 | 専門家によるアドバイス、調査 など |
| (11) その他 | 上記項目に該当しない必要経費 |

※自治体の補助金や他団体等の助成金を活用する事業でも応募できます。なお、申請書への記載にあたっては、資金提供元、事業名、助成額等を、予算書収入欄の「その他資金」（内訳）に記入してください。ただし、同一の費用を重複して計上することはできません。

※造作物の設置や舗装等に活用する場合は、当該地域及びその周辺環境への影響に十分配慮するとともに、法令や対象地域の条例を遵守することを条件とします。

※募集要項の助成対象の経費について記入してください。以下の支出は助成対象外とします。

- ・助成決定金額の50%を超える人件費
- ・助成決定金額の 30%を超える物品購入費（デジタルカメラ、パソコン、タブレット、センサー など）
- ・通常の団体運営に関する経費（事務所家賃、光熱水費、定期刊行物発行経費など）
- ・1回のイベント等で終了する活動経費
- ・通信運搬費の電話料、プロバイダー料等の情報通信に関する経費
- ・助成対象事業から得られる収入（講師謝礼など）の他事業への充当
- ・当該団体の関連団体（団体構成員が役員などを兼務あるいは資本関係のある団体など）への委託
- ・自団体が支払い先となるような支出、その他M C F が不適当と判断した経費

10.協働する団体の概要（協働申請の団体：必須）

団体名					
団体種別	NPO法人		NPO法人以外の法人格（		法人格なし
主な活動分野・領域	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> 協働申請の団体は、必須となりますので、項番10、11をご記入ください。 </div>				
代表者名					
設立目的					
設立時期			会員数(人)		
前事業年度 財政状況	経 常 収 益			経 常 支 出	
今事業年度 予算	経常収益		円	経常支出	円
他の助成機関 からの助成	助成団体名		助成時期	助成金額(円)	助成内容

11.協働する団体の概要

○協働する団体が持つ専門性・実績について記入してください。（団体毎に簡潔に）

○協働する団体と連携することにより、どのような相乗効果が期待できるのか記入してください。（団体毎に簡潔に）